



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 「島田市立総合医療センター」ついに完成!

市立島田市民病院は、私たちの命を守る大切な病院です。地域の基幹病院として、市民の健康を守り、市民のよりどころであり続けるために、平成 26 年から老朽化した病院を建て替える事業を進めてまいりました。構想から足掛け 8 年、本年 1 月末に新病院「島田市立総合医療センター」の本体工事が、無事完了したことをご報告申し上げます。

当市の地域医療を取り巻く状況には、少子高齢化の進行、地域医療を支えていただいている医師の高齢化や後継者不足、地域的な偏在化など、極めて厳しいものがあります。このような状況の中で、新型コロナウイルス感染症にも対応する感染症専用病床を備え、地域医療の中核を担う当病院の役割は、従来にも増して重要となっています。



北側から見た外観

今後は、5 月 2 日の開院に向けて、最新医療機器の搬入や院内の備品整備を進めていきます(現病院の解体や駐車場整備等が完了してグランドオープンを迎えるのは来秋の予定)。また、病院にとって一番大切な医師確保については、現在の常勤医 89 人体制から開院 3 年後の 100 人体制を目指し、更なる努力を重ねてまいります。

今月は、新病院建設にあたって配慮した点、新病院の特徴などをお伝えしたいと思います。

①まずは、市民を守る救急ホットラインの構築です。屋上にヘリポートを設置し、ドクターヘリから直結する救急専用大型エレベーターで、救急・手術・重症室へ患者搬送が速やかに行えるよう、救急医療体制を強化しました。



屋上ヘリポート

②ユニバーサルデザインに配慮し、使いやすく分かりやすい病院を造りました。1・2 階の外来と検査部門は、センターストリート(幅約 6m、

全長約 100 mの廊下) から全て見渡せます。また、院内の空気清浄度を確保し、院内感染を防止します。来院者の安全を第一に、適切な医療環境・衛生環境・医療設備を確保しています。



③職員にとって働きがいのある病院を目指しました。スタッフと患者の動線を分離するため、外来診療室の裏側にスタッフ通路を配置。また、3 階はスタッフフロアとし、医療従事者専用の交流と休憩スペース(スタッフ commons)を整備しています。より良い職場環境は、医師や看護師の招聘にも繋がると考えています。

センターストリート(一部)

④十分な駐車場を確保するとともに、乗降のしやすい広いロータリーを造り、病院玄関までの安全な動線を確保します。また、病院に入る道路に右折レーンを設置し、渋滞緩和を図ります。来院者のための「子育て支援駐車場」や「車いす駐車場」を整備します。

⑤災害拠点病院として、災害対策にも重点を置き、ライフラインのバックアップ機能を確保しています(自家発電装置、備蓄倉庫、耐震上水配管など)。また、被災者の受け入れを想定して、屋外での重症度別受け入れ(トリアージ)や感染症のパンデミックにも対応できる整備をしています。

⑥病院機能を確保した上で、ランニングコスト(維持管理費)の削減、イニシャルコスト(設置費・導入費)の削減を目指し、節水型の衛生機器や LED、人感センサーを設けるなど、省エネルギー化を図りました。また、自然採光、自然換気等を積極的に取り入れることで、環境とライフサイクルコスト(造られてからその役割を終えるまでにかかる経費)に配慮した病院となっています。

もっともっと詳しく新病院の説明をしたいのですが、紙面が足りず残念です。島田市立総合医療センター完成に至るまでの間、病院のあり方、診療機能や規模など、建設に向けてさまざまな調査や検討などに関わってくださった、全ての皆さまに心から感謝と敬意を表します。ありがとうございました。